

私は前の手紙で、淫らな者と交際してはいけないと書きました。それは、この世の淫らな者、貪欲な者、奪い取る者、偶像を礼拝する者と一切交際してはいけない、ということではありません。もしそうだとしたら、あなたがたはこの世から出て行かなければならないでしょう。今度はこう書きます。きょうだいと呼ばれている人で、淫らな者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人を罵る者、酒に溺れる者、奪い取る者がいれば、そのような人とは交際してはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。（Iコリント5：9～11）

5章からは、コリント教会で起こった具体的な問題について、勧めの言葉を書いている。最初は「不道德な人々との交際」に関するものである。あなたがたの間で、異邦人の間でも見られない淫らな行いがあると聞いた。それは、父の妻と一緒にいるとのことである。父の妻は母親であるが、これは、父の後妻、即ち、義母と性的交わりをしているということである。レビ記18章8節に「あなたの父の妻を犯してはならない。それはあなたの父を辱めることである」と書かれている。ヤコブの長男ルベンは、父の側女ビルハと寝た。ヤコブは、子どもたちに遺言を語った時、ルベンに「お前は父の寝台を汚した。私の床に上った（創世記49：4b）」と告げ、祝福から外している。コリント教会では、このような性的乱れがあり、しかも、それを誇るような風潮があった。コリントの町は「退廃の町」と言われていたので、その退廃が教会の中に持ち込まれていたのである。そのような者を自分たちの中から排除すべきであると言っている。パウロは、体は離れていても、霊では、コリント教会に居合わせる者として、淫らなことをする者を既に裁いている。主イエスの名により、主イエスの力をもって、あなたがたと私の霊が集まるところでは、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したと、手厳しく断罪している。しかしそれは、キリストが来られる再臨の日に、彼の霊が救われるためである。パウロは、激しく糾弾するけれども、終末時に霊が救われるためであると語っている。

僅かなパン種が生地全体を膨らませる。新しい生地のみままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。あなたがたは過越の小羊によって、パン種の入っていない者とされている。古いパン種や悪意と邪悪のパン種を用いず、パン種の入っていない純粋で真実なパンで祭りを祝おうではないか。出エジプトした時、小羊の血によって、また、パン種のないパンを持ってエジプトから脱出できた。パウロは、あの清さに与って、淫らな行いに走るパン種を排除せよと語る。そして、下記のように忠告する。「私は前の手紙で、淫らな者と交際してはいけないと書きました。それは、この世の淫らな者、貪欲な者、奪い取る者、偶像を礼拝する者と一切交際してはいけない、ということではありません。もしそうだとしたら、あなたがたはこの世から出て行かなければならないでしょう。今後はこう書きます。きょうだいと呼ばれている人で、淫らな者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人を罵る者、酒に溺れる者、奪い取る者がいれば、そのような人とは交際してはいけない、一緒に食事をしてはいけない、ということです。」この世の不道德な者と交際しないわけにはいかず、そんなことをすれば、この世とは関わりのない者となり、生活が成り立たない。教会外の人には神が裁かれる。しかし、教会の中で、不道德に走る悪人を除き去れ。パウロは、教会はキリストの愛と真実を生きる場所であると強く諭している。